

県には「青森県りんご  
発達史」(全14巻、19  
58〜74年刊行)と「青  
森県りんご百年史」(77  
年刊行)という貴重で立  
派な資料集がある。いず  
れもハードカバーの箱入  
りで、百年史はまるで百

# 5万トン時代へ

## 青森リンゴ輸出

2

科辞典のようだ。

百年史は比較的多く出  
版されたので、リング関  
係機関や市町村の図書館

などで閲覧することがで  
きると思うが、発達史は  
最初に出版されてから60  
年近くたっており、全14

巻もあることから、なか  
なかそろっているところ  
はない。以前私が所属し  
ていた県りんご果樹課に

一式そろっていたが、持  
ち出し禁止だった。最初  
に発達史を読ませてもら  
った時は、青森リンゴの

歴史の年輪をひもとくよ  
うな、重みをジワッと感  
じたものだ。

百年史も青森リンゴ1  
00年を記念して2年が  
かりで作成されたが、編  
集のあとがきなどによる  
と、古い歴史はリンゴ発

## 「発達史」と「百年史」

# 歴史つむぐ重厚な資料

発達史によるところが多か  
ったようだ。そこで、今  
執筆するに当たっては、



県りんご果樹課にある「青森県りんご  
百年史」⑤と「青森県りんご発達史」

発達史と百年史から、か  
なり引用させていただ  
いた。

本県でリンゴが初めて  
栽培されたのは1875  
(明治8)年。内務省勸

業寮からリンゴの苗木を  
受領して県庁構内に植え  
た。昨年140周年を迎  
えて、記念の行事も行わ  
れた。

明治維新後の土族のた  
めの産業振興の一環とし  
て、国内各地で農業振興  
策が講じられた。本県も  
勸業寮の洋種果樹苗木試  
作依頼に応募して、リン  
ゴとブドウの苗木それぞ

れ3株の配布を受けたの  
である。その後、75(明  
治8)年秋から翌76(同  
9)年にかけて数百本の  
苗木を土族に試作させ  
た。それから今日まで、  
わが国の半分のシェアを  
持つ一大産地に育ってき  
た。

この中で、リンゴの輸  
出は生産が軌道に乗った  
かなり早い時期から始ま  
った。

本県の商人によるリン  
ゴ輸出は、99(同32)年  
に、ロシアのウラジオス  
トック向けに行われたと  
の記録が残っている。輸  
出も何と117年の歴史  
があることになる。  
(県りんご輸出協会事務  
局長 深澤守)